資料2

これまでの道路行政についての分析・評価（素案）

趣旨；これまでを分析・評価し、課題を指摘

（戦後の）モノ不足、右肩上がりの時代

産業は各分野がそれぞれ量の充足を追求 ⇒ 高度経済成長と国民生活の向上に直結

急激なモータリゼーションの拡大に対し、ストックを供給して貢献

現状の分析・評価

1．道路行政に対する認識

＜国民との距離・時代の変化への対応＞

●道路行政に対する不信や施策の実施状況に対する不満があり、国民と意識、価値観等が共有できていない。

●今後の道路の果たすべき役割や道路行政の進め方についての本質的な問題に対する議論が不十分である。

2．社会の課題への対応

これまでの整備により一定の成果をあげてきたところであるが、社会の課題解決のために役割を果たすべき領域が残されている。

〈経済〉 中国などの台頭の中で、国際競争力をどのように確保するのか

〈地域〉 人口減少・格差の顕在化の中で、地域の活力をどのように維持するのか

〈安全・安心〉 国民の安全・安心をどのように確保するのか

〈質の高いくらし〉 文化的価値など質の高さを実感できるくらしをどのように実現するか

〈環境〉 環境への負荷が少ない活力ある社会をどのように実現するか

＜地域の基盤としての課題＞

●地域の活力基盤、充実した生活の場の提供

- 地域経済の基盤としての、国内外の他の圏域とのアクセスの向上
（地域の特色を活かした産業・観光の振興　等）
- 病院や学校等の生活サービス機能と道路ネットワークとの関係整理
（施設の分担・共有化による社会コストの低減　等）
- 生活空間として道路の復権・見直し
（生活道路からの通過交通の排除、自転車への空間配分　等）
- 景観・街並みとの調和
（地域の資産としての価値の向上　等）

等

＜交通システムとしての課題＞

●交通システム全体としての信頼性、安全性、温暖化ガスの排出を含めた効率性の確保

- 交通全体の中での道路の役割、位置づけの整理
（交通モード間の相互関係・連携状況の把握　等）
- 渋滞や開かずの踏切等ボトルネック箇所等への対応
- 自動車の実燃費の向上（現状は米並み）
- 災害等におけるリダンダンシーの確保
- 安全性の向上（現状は欧米より高い事故率）

等

「今後の道路行政のあり方・方向性」の議論のためのたたき台

H21.8.25
基本政策部会
家田　仁

趣旨；社会の課題の解決に具体的にこうアプローチしていくべき

今後の方向性を検討するにあたり、道路をとりまく状況について再認識すべきではないか？

○時代背景が変化する中では本質的な問題について議論を深める必要があるのではないか。
○議論が深められるよう、
　・時代の変化の中での社会の課題への対応状況、
　・国民の不信・不満の原因
　等を徹底的に分析していくべきではないか。

人口減少、財政や時間、環境の制約等も重なり、課題への対応は益々困難に。「望ましい社会」の実現に向け、これを支える社会基盤を制約の下で効率的に整備・運営していく新しい進め方が必要。

これからの望ましい社会の姿

競争力ある経済	活力ある地域	安全・安心が確保された社会	質の高いくらし	低炭素社会

望ましい社会を支える、低コストで機能性の高い道路システムを構築していくべきではないか？

＜日本らしい知恵と工夫で、国際社会から評価され、歴史に残るシステムを念頭に＞

①道路単独の課題解決から関係分野との連携で解決力を高めた道路システムへ
（統合的・融合的取り組み）

②画一的な対応から、知恵と工夫を凝らした柔軟な道路システムへ（革新的・創造的取り組み）

③トラフィック機能だけでなく空間機能など様々な特性を活かした道路システムへ
（多様な価値への取り組み）

国民との意識の共有を図る仕組み、更には道路を国民の貴重な資産として大事に活用していく仕組みをつくっていくべきではないか？

＜厳しくなる制約の中で課題を解決していくためには、国民と目的意識等を共有することが益々重要に＞

①施策に意見を反映させるオープンな手続きを確立すべきではないか。

・課題、目的、手法、効果、優先順位、制約条件等を踏まえたメニューを示し、オープンな手続きの中で、国民や地域の意見を踏まえて、決定していくべきではないか。

②地域の人々とともに道路の価値を高めていくべきではないか。

・道路を、身近にある国民の資産として、世代を超えて共感の得られる公共空間とするために、地域の人々が参加・協働する仕組みを構築していくべきではないか。